

2010年度2月期 決算説明会



1
ONLY ONE



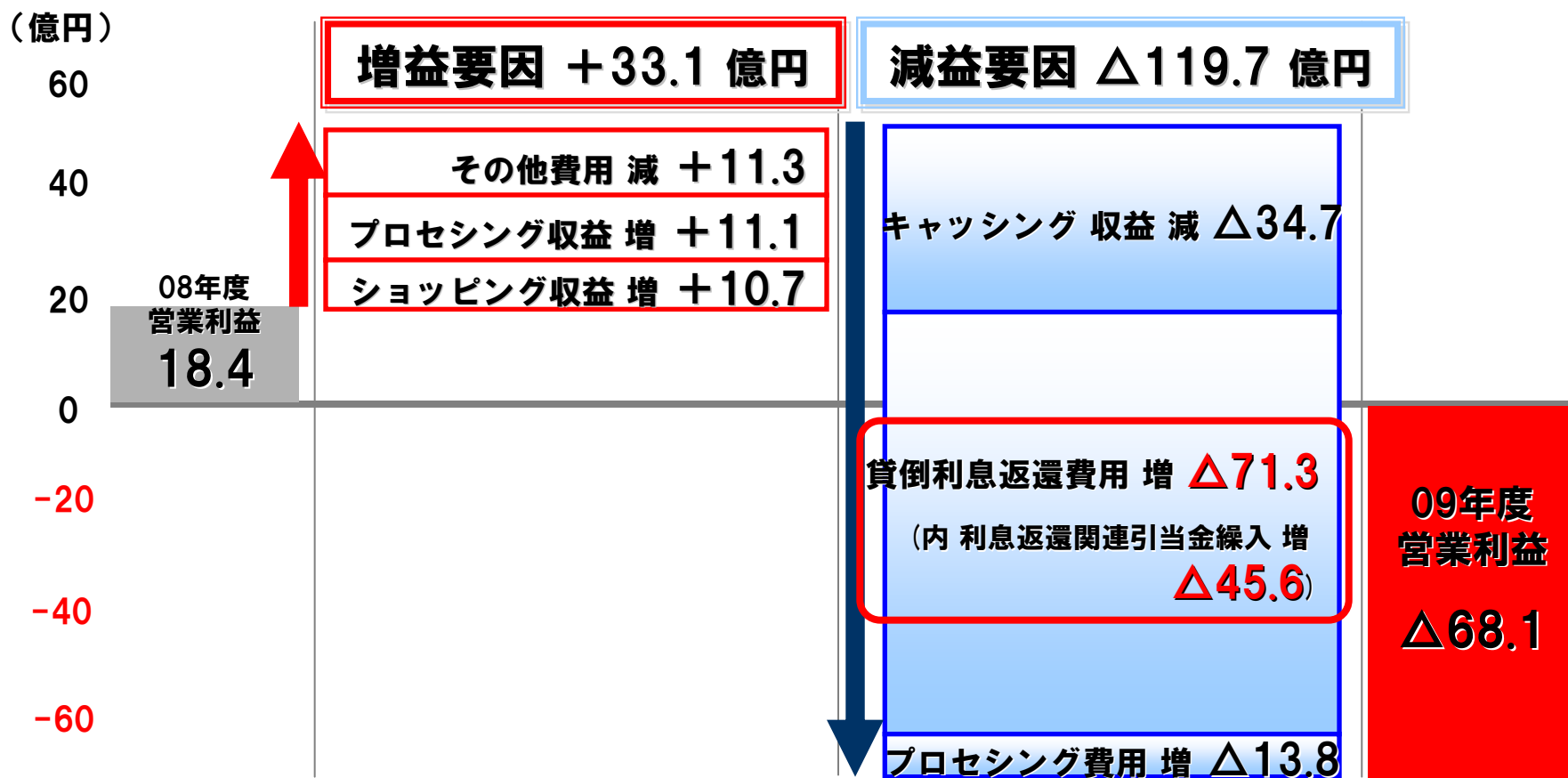
その答えは
ポケットカード。

代表取締役社長 **渡辺 恵一**

	10年2月期 実績	前期比	2009/9/25 公表数値	2010/4/2 公表数値
① 営業収益	37,532 百万円	△ 3.3 %	37,300 百万円	37,500 百万円
② 営業利益	△ 6,818 百万円	-	△ 200 百万円	△ 6,800 百万円
③ 経常利益	△ 6,804 百万円	-	△ 200 百万円	△ 6,800 百万円
④ 当期純利益	△ 4,104 百万円	-	△ 150 百万円	△ 4,100 百万円

前期差異要因

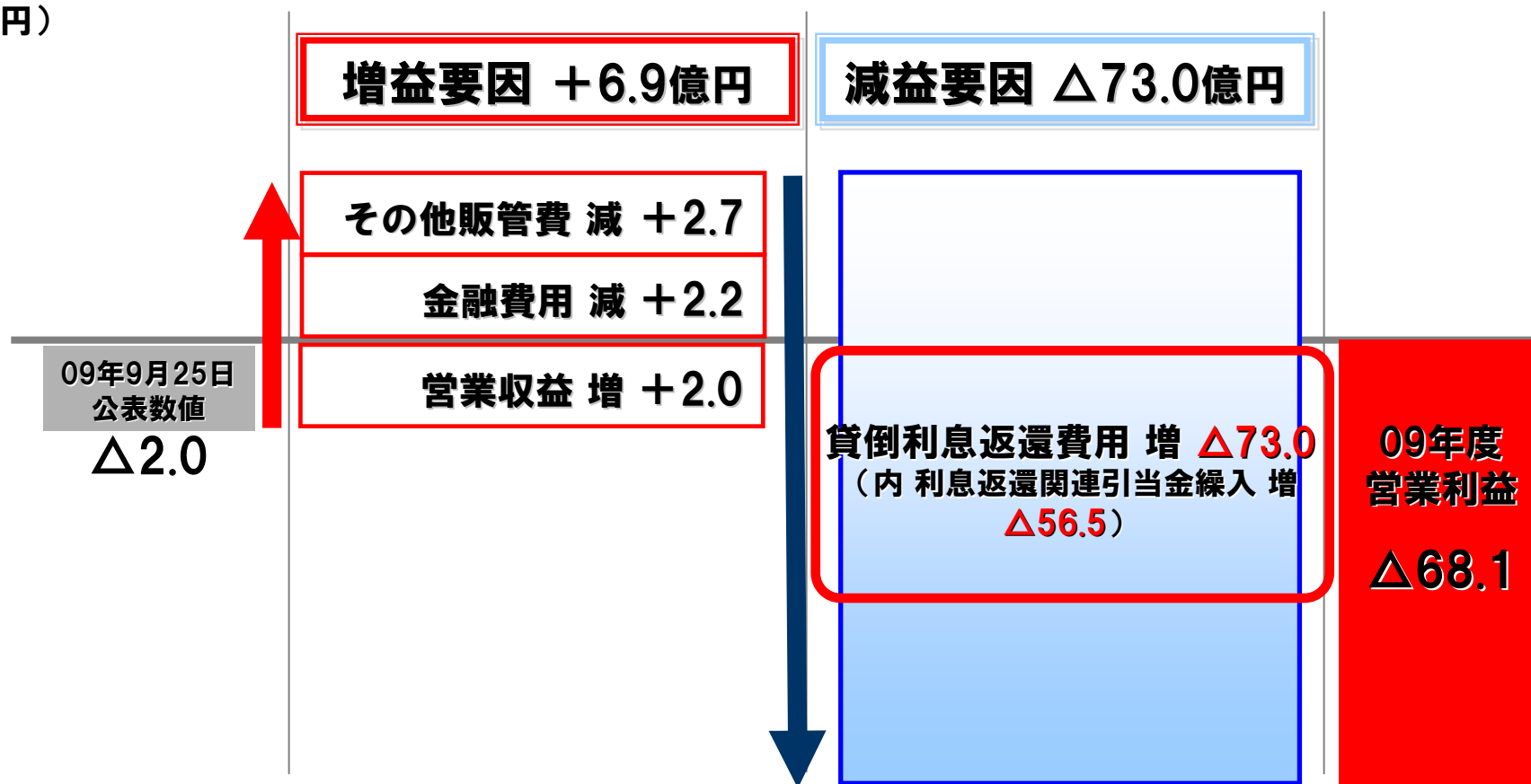
	09年2月期	10年2月期	前期差
営業利益	18.4 億円	△68.1 億円	△86.6 億円



計画差異要因

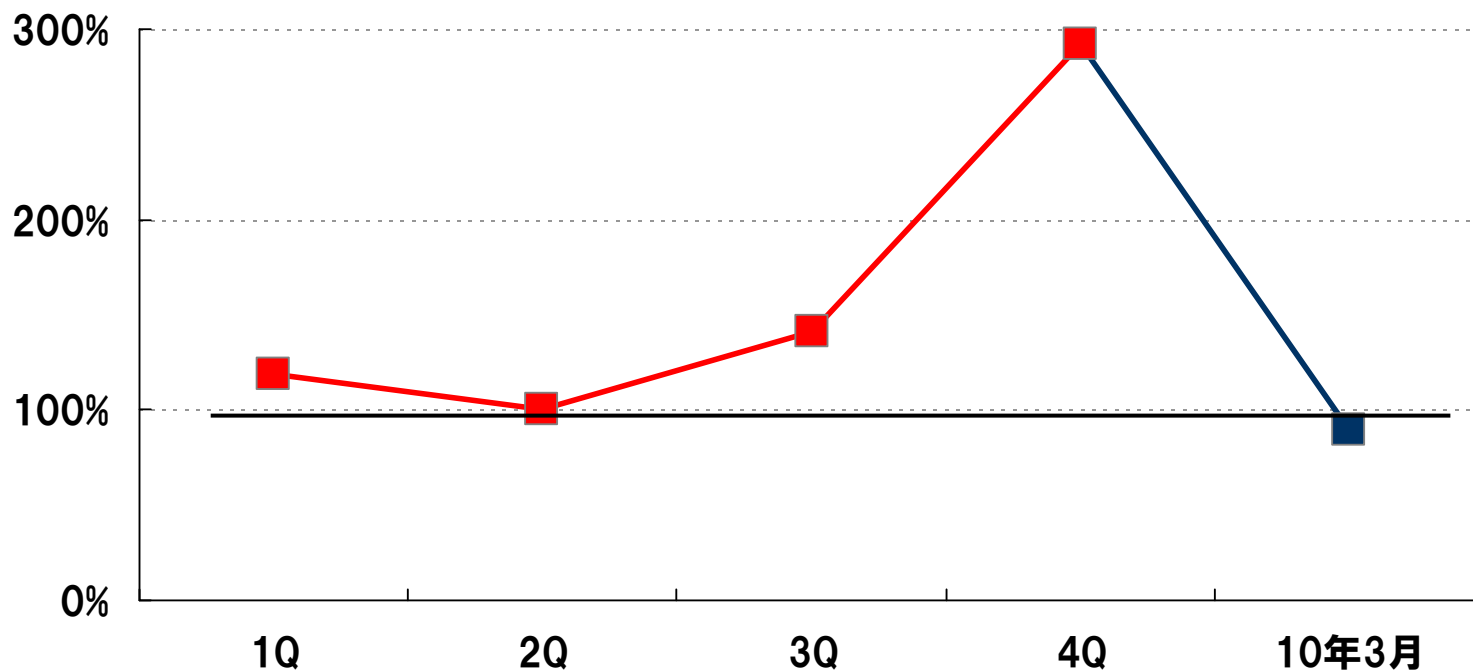
	2009年9月25日 公表数値	2010年2月期 実績	差異
営業利益	△2 億円	△68.1億円	△66 .1億円

(億円)



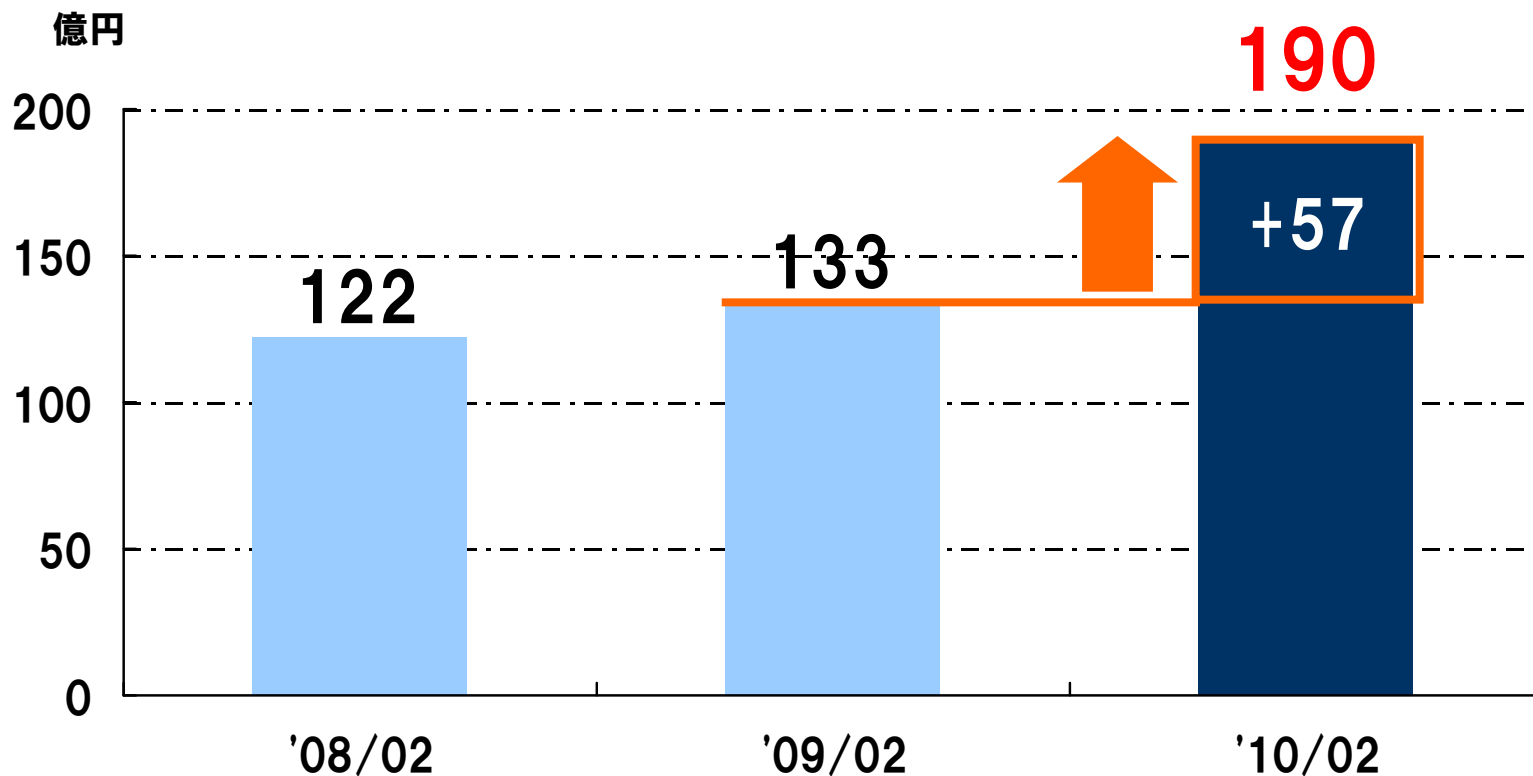
利息返還請求を前倒しで処理

利息返還額 前年同期比推移



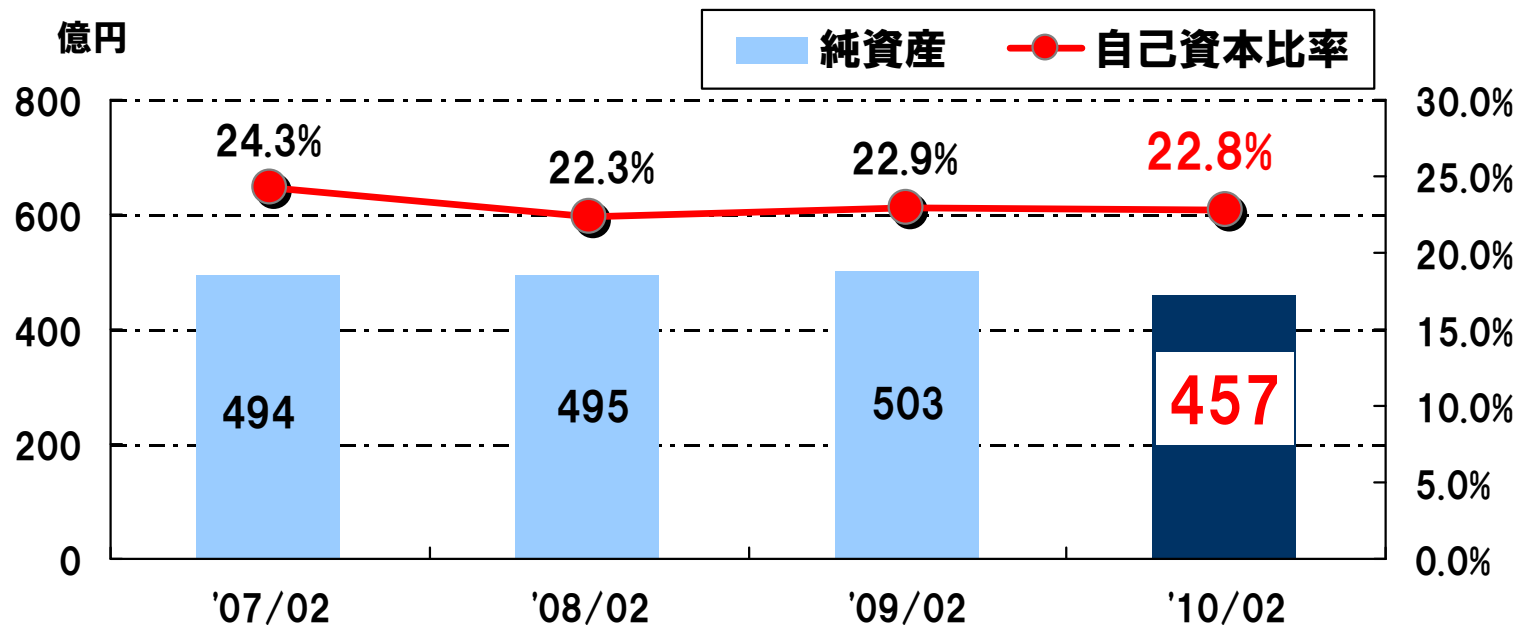
保守的に引当金を積み増し (+57億円) 将来リスクに対応

利息返還関連引当金推移



引き続き高水準、安定した財務基盤を維持

純資産／自己資本比率推移



単位：百万円

	項目	10年2月期	前期差	前期比
①	割賦購入あっせん	273,941	9,471	3.6%
②	融資	65,301	△23,695	△26.6%
③	その他	4,160	△5,734	△57.9%
④	取扱高合計	343,403	△19,957	△5.5%

単位：百万円

	項目	10年2月期	前期差	前期比
①	割賦売掛金	76,100	8,754	13.0%
②	営業貸付金	125,739	△12,291	△8.9%
③	債権残高合計	201,840	△3,537	△1.7%

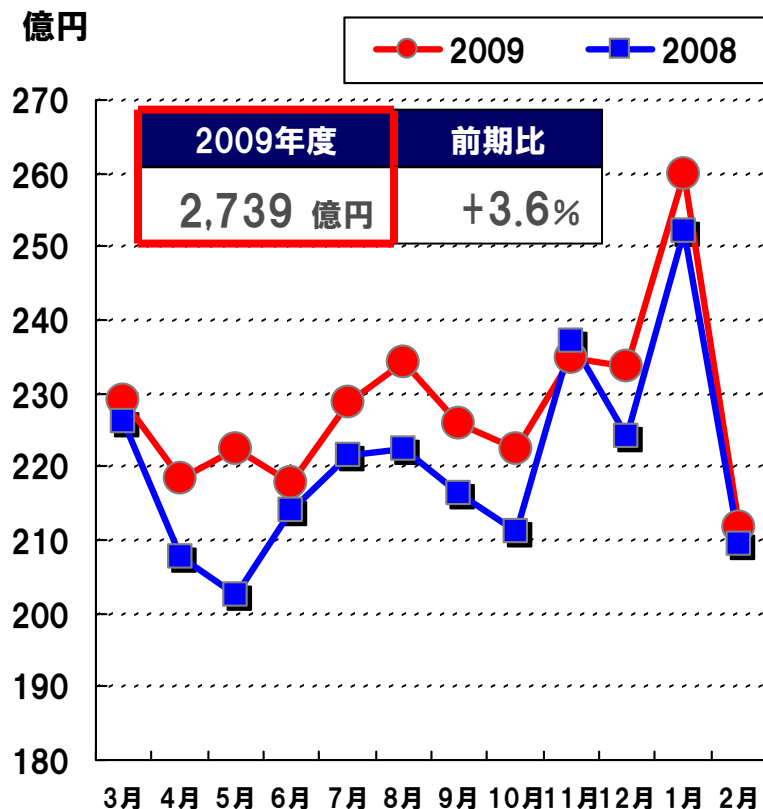
※債権流動化分を含む

単位：百万円

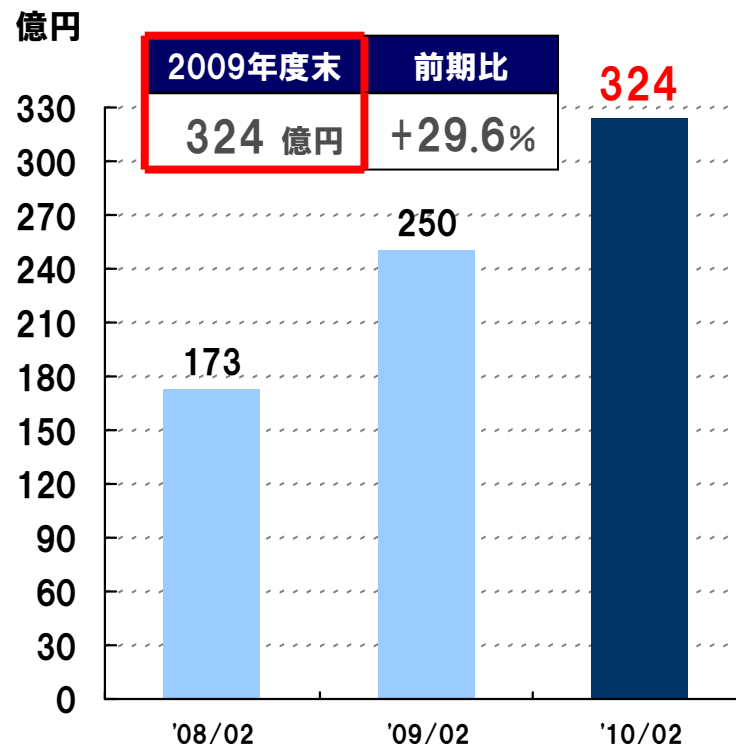
	項目	10年2月期	前期差	前期比
①	割賦購入あっせん	8,657	1,070	14.1%
②	融資	24,018	△3,470	△12.6%
③	プロセッシング	3,718	1,110	42.6%
④	その他	1,137	△6	△0.5%
⑤	営業収益合計	37,532	△1,294	△3.3%

ショッピング取扱高、Sリボ残高は共に堅調に推移

1. ショッピング取扱高推移

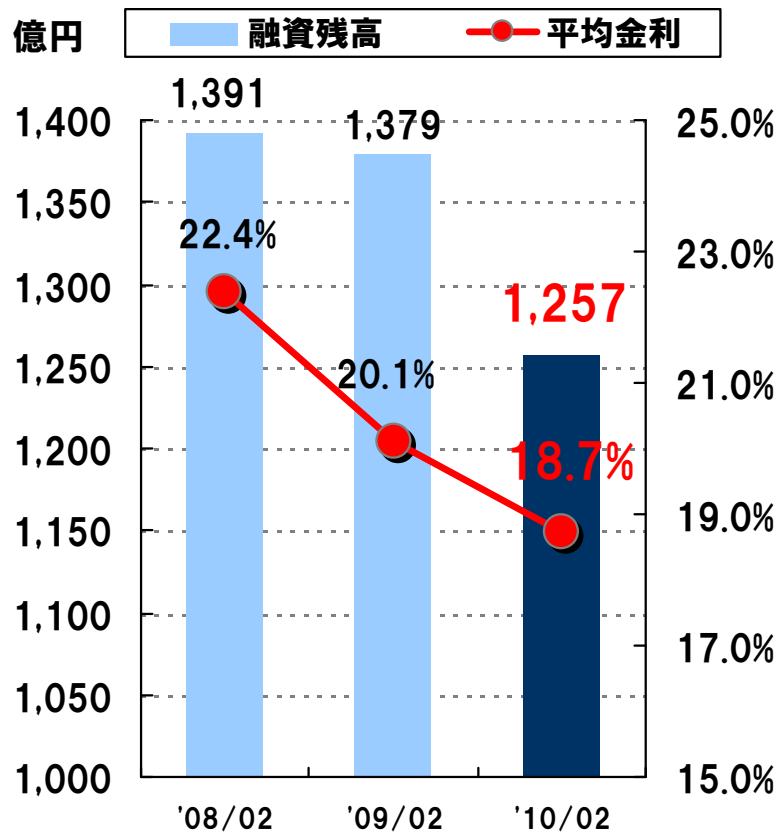


2. ショッピングリボ残高推移

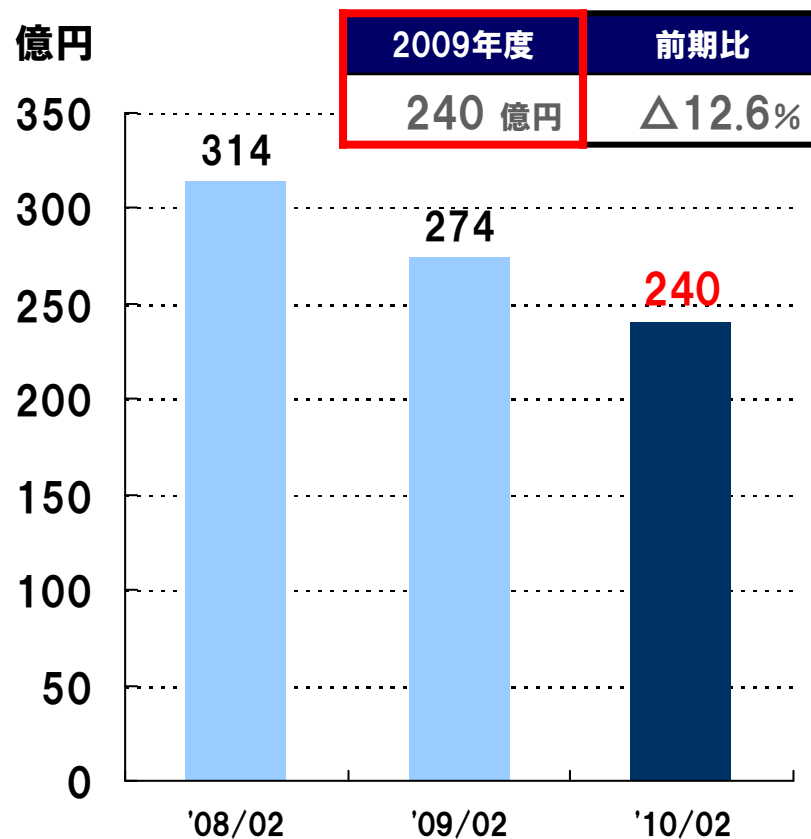


貸金業法完全施行を見据えた与信厳格化により残高減少

1. 融資残高・平均金利推移



2. 融資収益推移

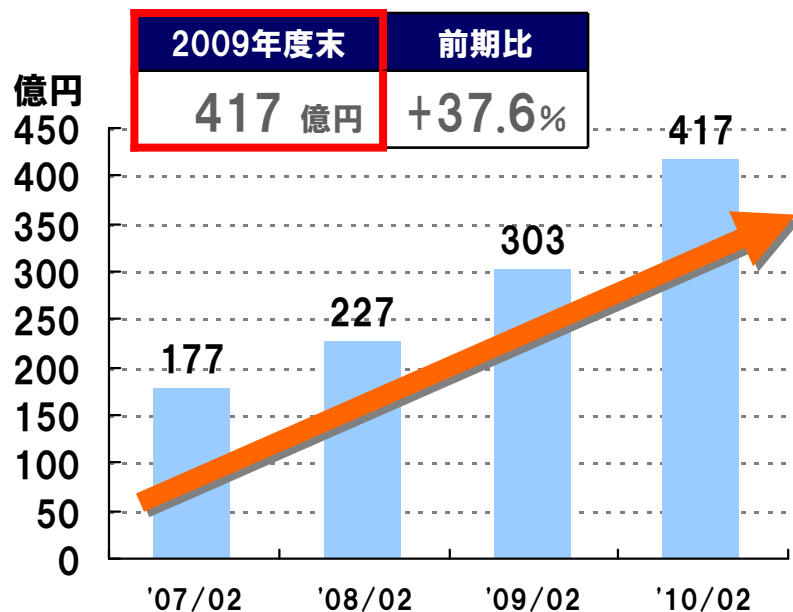


会員数、保証残高共に大幅拡大

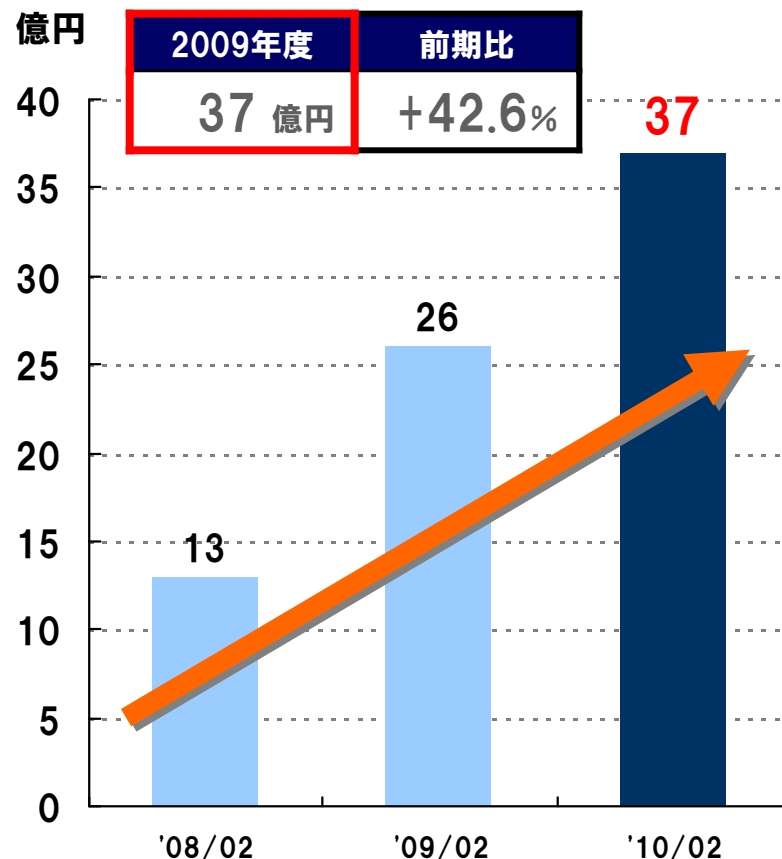
1. プロセッシングカード発行件数

2009年度	前期差
64 万件	+20 万件

2. 保証残高推移



3. プロセッシング 営業収益推移

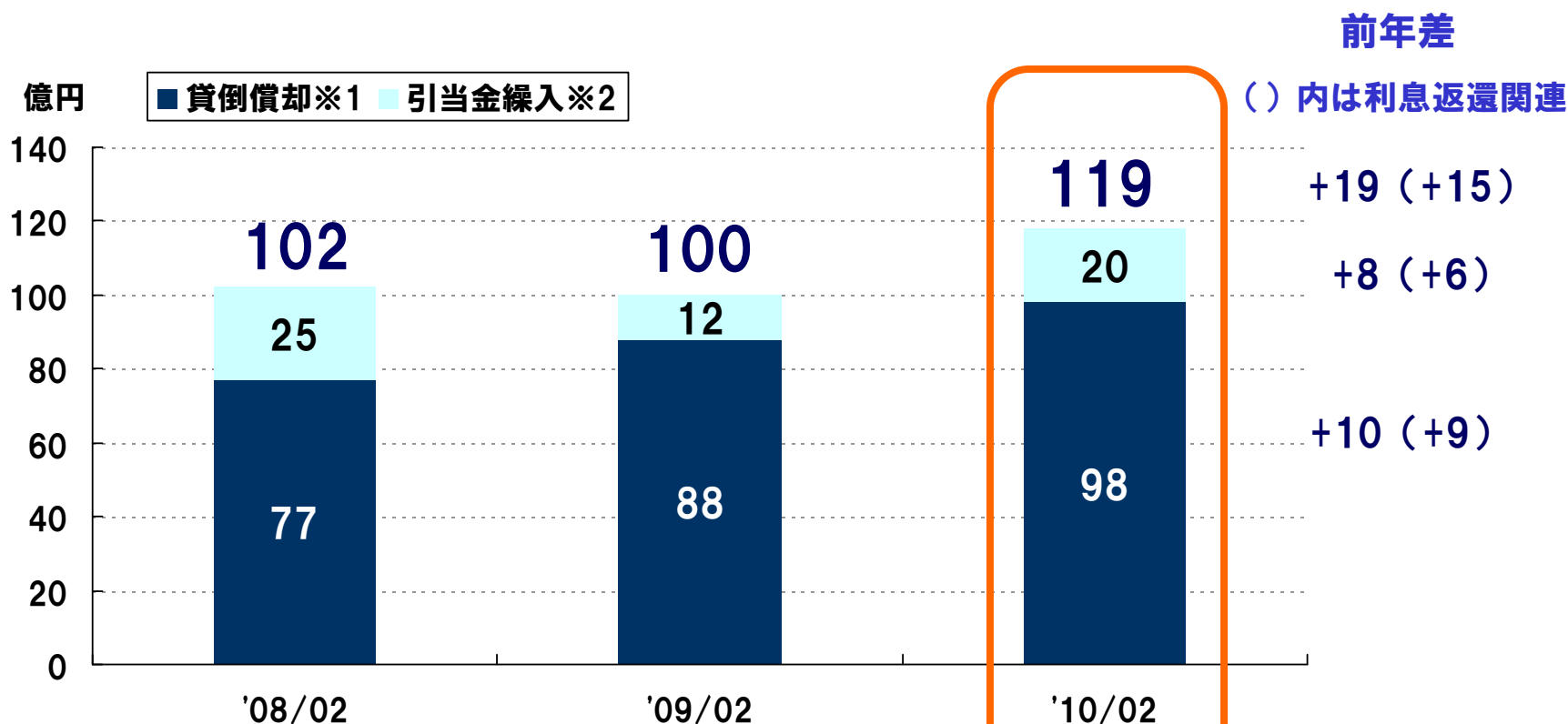


単位：百万円

	項目	10年2月期	前期差	前期比
①	金融費用	3,754	△94	△2.4%
②	販管費合計	40,596	7,463	22.5%
③	貸倒利息返還関連費用	19,424	7,126	57.9%
④	プロセッシング関連費用	4,746	1,376	40.9%
⑤	その他販管費 (貸倒利息返還・プロセッシング関連費用除く)	16,426	△1,039	△5.9%
⑥	営業費用合計	44,350	7,369	19.9%

利息返還部分は増加となるもその他部分は概ね横ばい

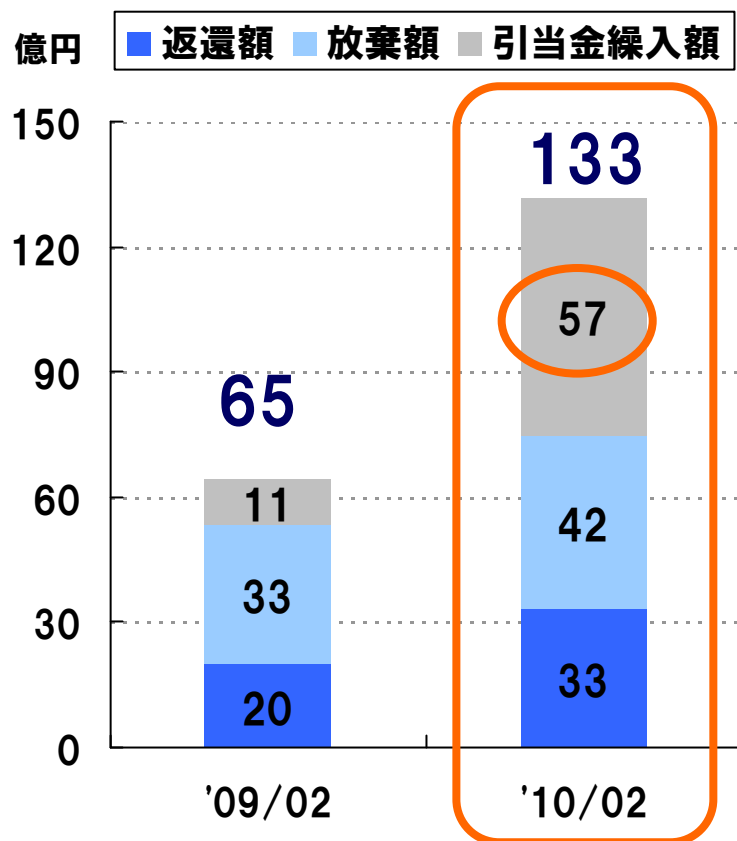
貸倒関連費用推移



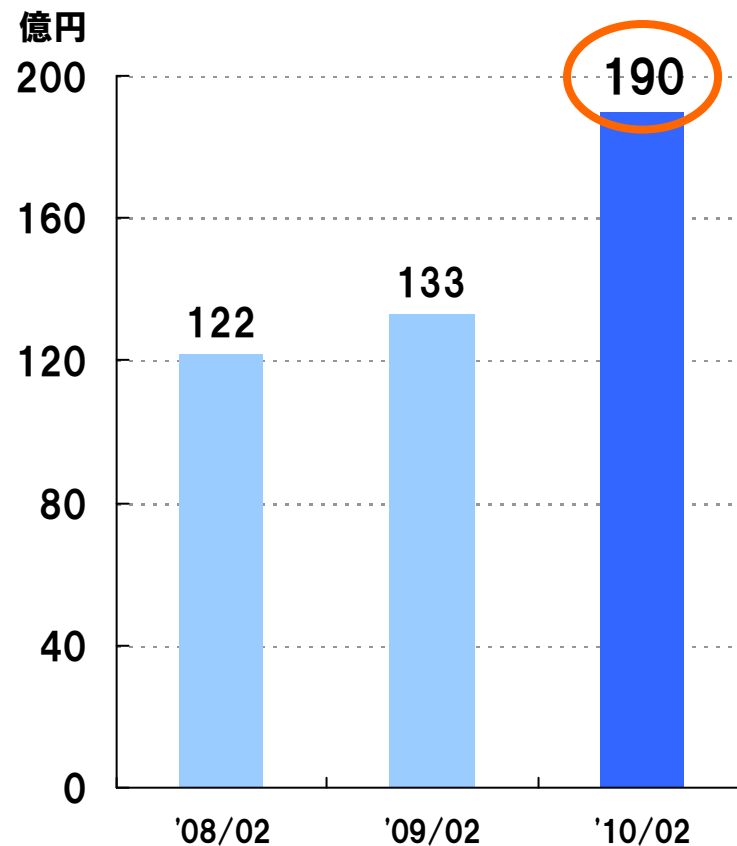
- ※1 利息返還に伴う債権放棄含む
 ※2 利息返還に係る貸倒引当金繰入も含む

引当金繰入を中心に費用は増加
将来リスクに備え引当金を保守的に積み増し

利息返還関連費用

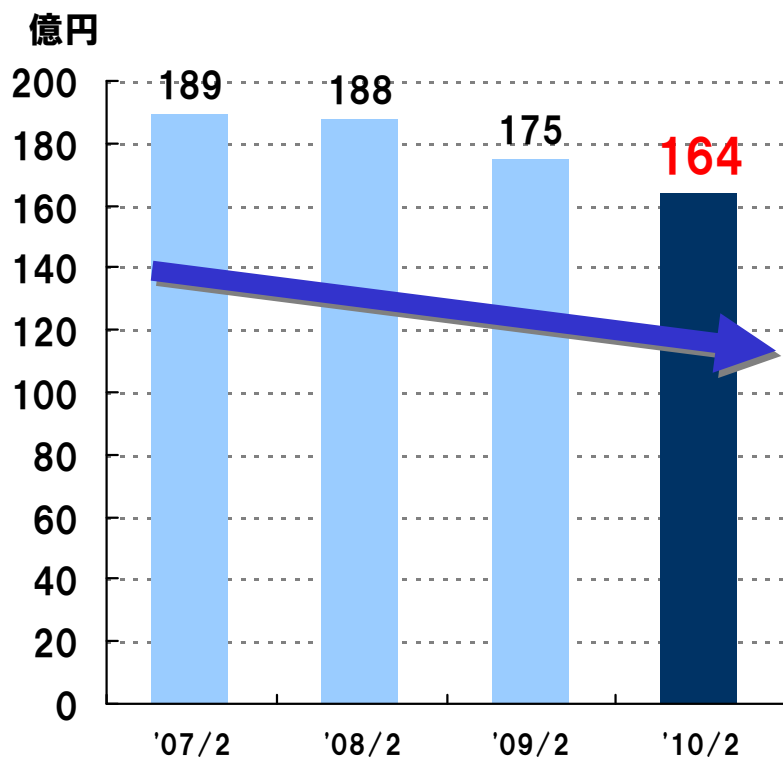


利息返還引当金状況



各種コスト削減の実施により、ベース部分の販管費は減少

1. ベース部分販売管理費推移



※金融費用・貸倒利息返還関連費用・プロセッシング費用除く

2. 実施施策一覧

- ① 会員募集の効率化**
 - ・ 支店統廃合による営業体制のスリム化
 - ・ ネットチャネル活用による効率化
- ② オペレーションコストの削減**
 - ・ バックオフィス全体の効率化、生産性向上
 - ・ 一部委託業務の海外移転
- ③ 各種販売費用の削減**
 - ・ 特典・サービスの適正化
 - ・ 明細書のハガキ化、オンライン化推進

		10年2月期	前期比
①	新規会員獲得数	25 万件	△9 万件
②	カード発行件数	85 万件	+11 万件
③	自社分	20 万件	△8 万件
④	プロセッシング分	64 万件	+20 万件
⑤	有効会員数	375 万人	△6 万人
⑥	利用会員数	133 万人	△3 万人
⑦	年間利用率	35.2 %	+0.4 pt
⑧	月間利用率	21.2 %	+0.5 pt

2010年度経営方針

～経営改善計画概要～

経営計画の骨子

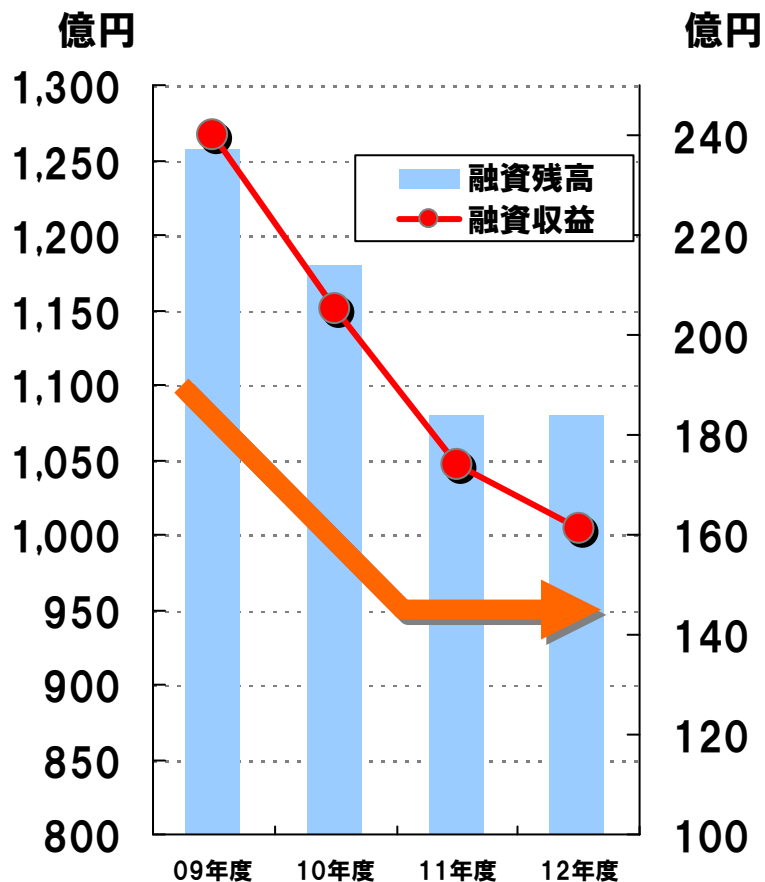
クレジットカード本来業務への回帰 ビジネスモデルの転換

- 1 選択と集中による営業戦略の再構築
- 2 経費全般の更なる見直しによる経営体質の改善
- 3 組織体制のスリム化と効率化

■2010年度 主要数値目標

	営業収益	経常利益	当期純利益
2010年度計画	362 億円	22 億円	14 億円

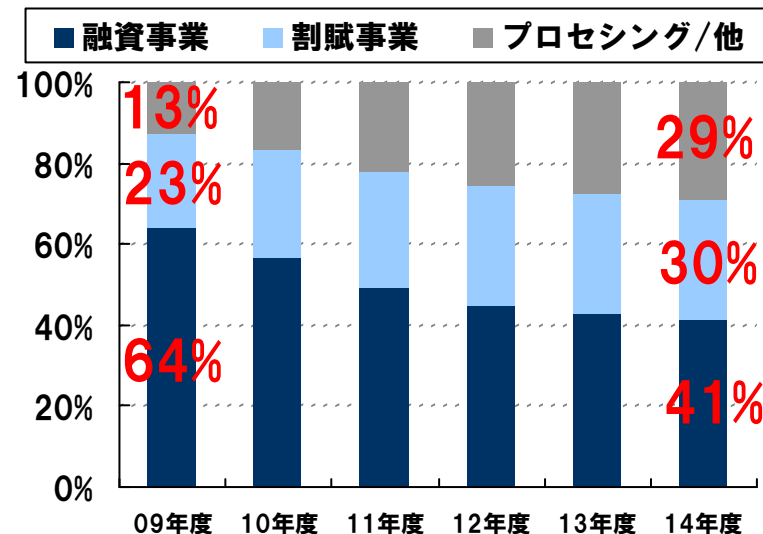
融資収入の減少



収入構造の再構築

営業戦略の選択と集中

- (1) 与信厳格化による融資残高抑制
- (2) ショッピングリボ残高拡大推進
- (3) プロセシングの拡大・利益率向上
- (4) カード戦略の再構築

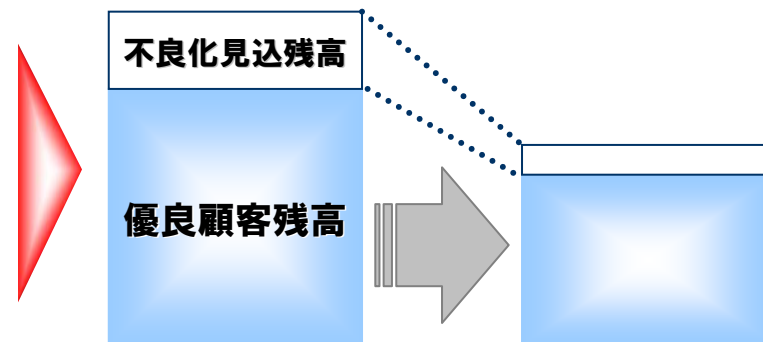


1. キャッシング計画

- (1) 総量規制対象となる顧客の早期選別を実施し貸倒れリスクを抑制
- (2) エクスペリアン社 新途上与信システムを活用した与信戦略の高度化
 - ・リスク最小化とリターン最大化のポートフォリオバランスをもたらす与信運用
- (3) 事業者向け商品等の規制対象外商品の対応
- (4) 借り換え等の条件緩和対応の検討・実施

	2010年度	前期差
融資収入	205億円	△35億円
融資残高	1,180億円	△77億円

- ・総量対応・与信厳格化→貸倒抑制
- ・与信戦略高度化→ポートフォリオバランス
- ・例外・適用除外商品等の対応

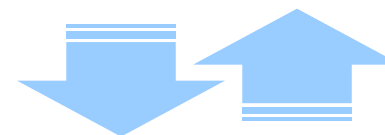


1. ショッピングリボ計画

	2010年度	前期差
顧客収入	51億円	+8億円
Sリボ残高	370億円	+46億円

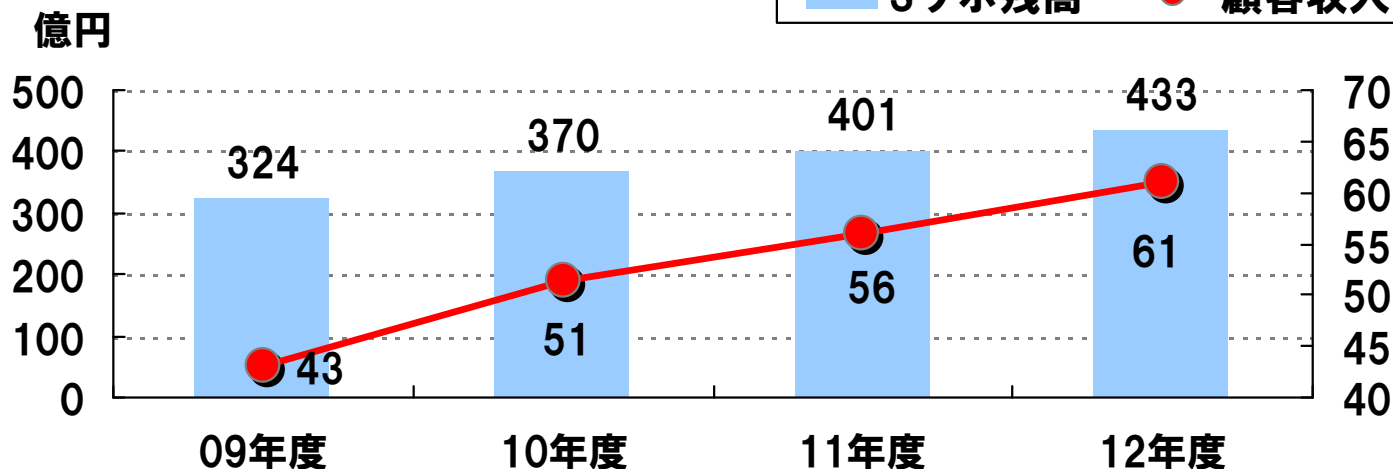
- (1) リボ宣言・あとリボ推進
- (2) FLEXY・コーナンFLEXY獲得推進
- (3) ZOZO等の若年層市場の開拓強化

顧客	顧客支払いニーズの多様化 決済インフラの普及
----	---------------------------



当社	収益構造の再構築 顧客支持の向上
----	---------------------

2. ショッピングリボ残高/顧客収入計画

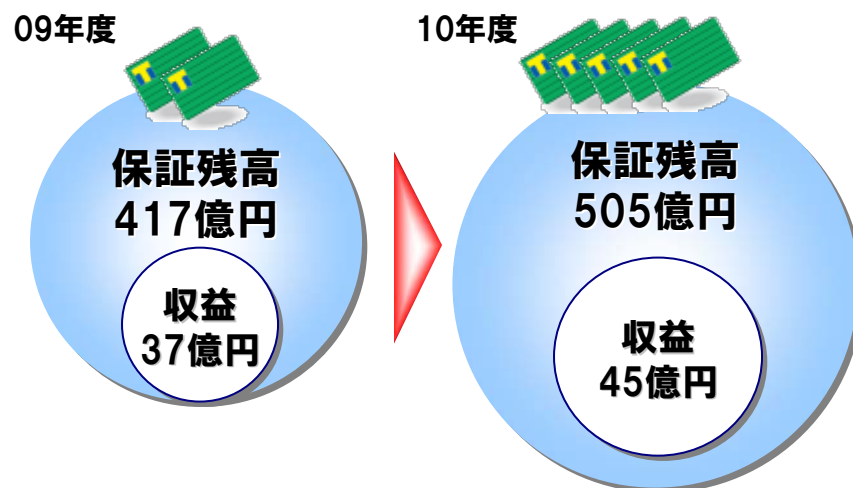


会員・残高拡大とコスト効率向上による単年度黒字の達成

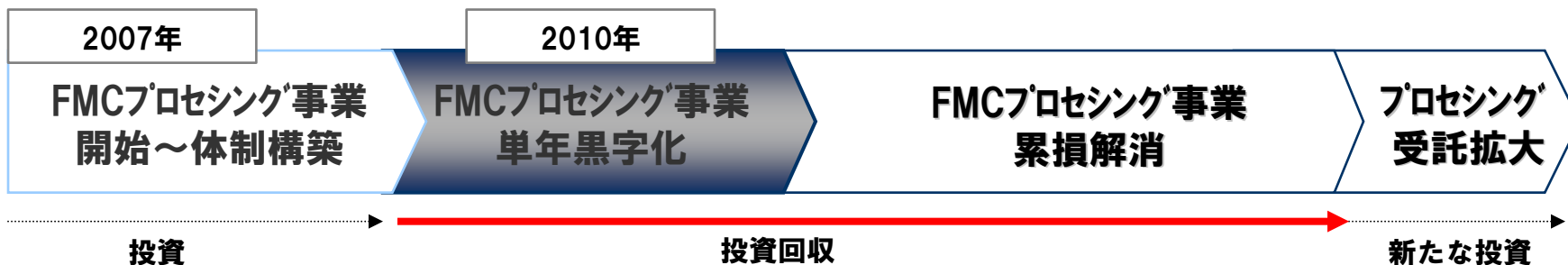
1. プロセッシング計画

	2010年度計画	前期差
営業収益	45 億円	+ 8 億円
保証残高	505 億円	+88 億円

- (1) 会員・残高の拡大
- (2) 事務コスト効率化による体質強化
パンチ業務完全中国移管、明細ハガキ化等



2. プロセッシング事業のロードマップ



カード戦略の再構築の取組み

(1) プロパーカードの再構築

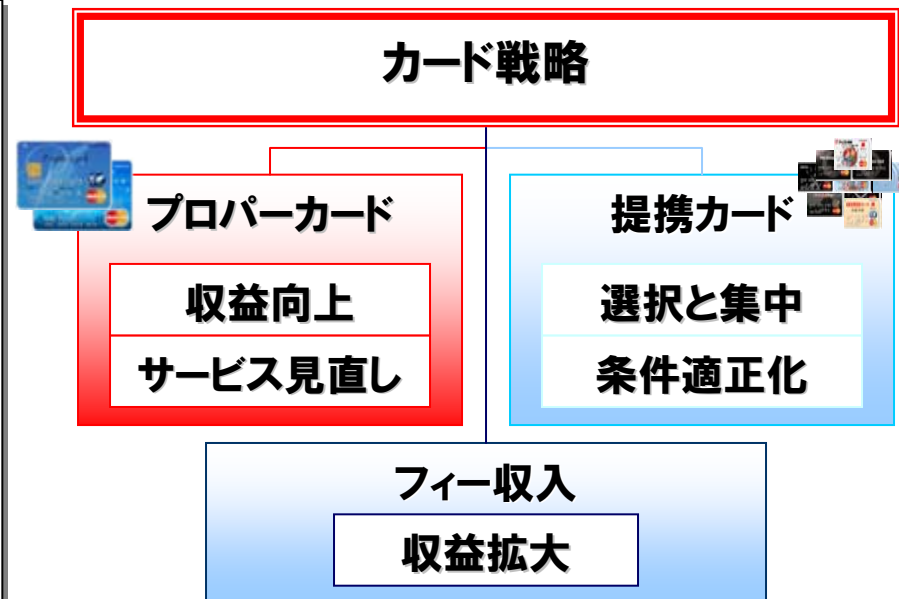
- ・年会費徴収等の顧客負担の適正
- ・特典・サービスの見直し

(2) 提携カードの見直し

- ・提携取組み方針の明確化
- ・適正条件・運営によるローコスト化

(3) フィー収入の拡大

- ・保険架電受託等の新たな取組み



増収施策合計 4億円

- ◆貸金業法改正により
融資事業の収益性の低下
- ◆コスト競争力の重要性向上

経営体質の改善
組織体制のスリム化・効率化

1. 業務プロセスの見直し
2. 人件費削減・組織のスリム化と効率化

1. 業務プロセス見直し

- (1) オペレーションの抜本的見直し
- (2) 顧客負担・サービスの適正化
- (3) 運営コストの徹底削減

削減額 7億円

2. 人件費削減・組織のスリム化と効率化

(1) 取締役、執行役員、部室長の報酬カット

- ・ 取締役、執行役員 ... 10% × 12ヶ月
- ・ 部室長 ... 5% × 12ヶ月

削減額 5億円

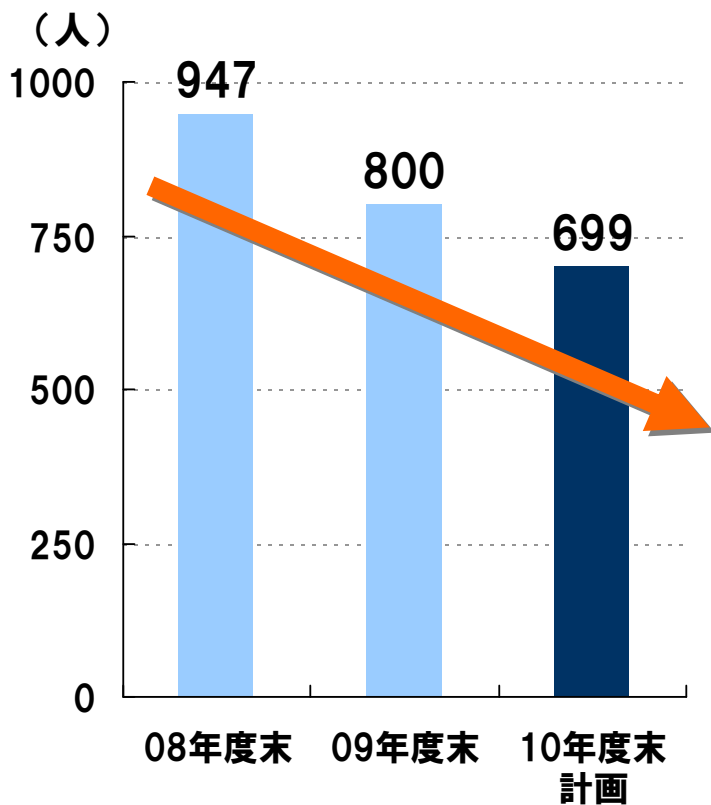
(2) 効率化・組織スリム化による人員削減

(3) 部室統廃合し24部室を20部室へ

業務プロセス見直し + 人件費で12億円削減
今まで以上に踏み込んだコスト削減を実施

人員および支店・営業所数を削減し、スリム化を実施

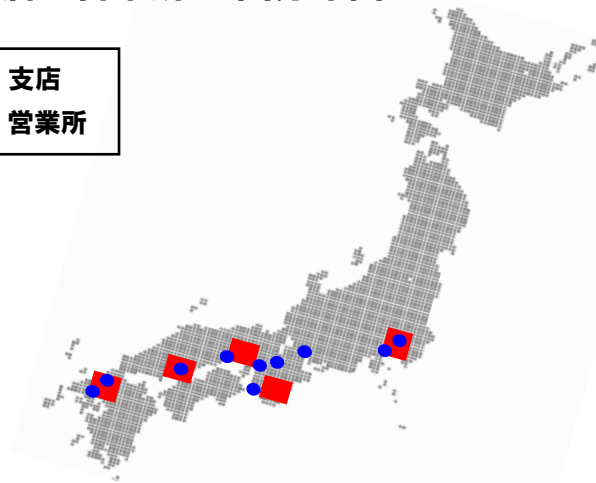
従業員数推移



支店・営業所数推移

	08年度末	09年度末	10年度末 (計画)
支店数	7	7	5
営業所数	16	10	10
合計	23	17	15

(ご参考) 支店・営業所 全国分布図



法改正対応スケジュール

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
貸金業法改正対応			●完全施行								
●指定信用情報機関対応											
●収入証明取得推進			●配偶者貸付対応開始								
●条件緩和検討・実施			●総量規制適用準備								
			●総量規制適用								
割賦販売法改正対応									●完全施行		
●顧客告知、書面等各種対応									●支払可能見込額調査システムリリース		

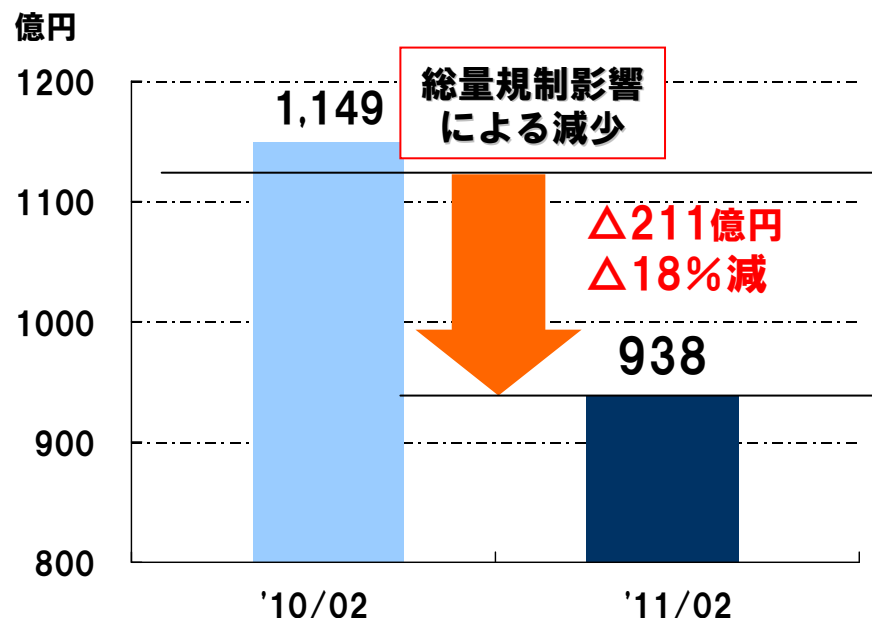
取組み内容

(1) 与信戦略精緻化	... 会員利用状況の見直し、リスク早期選定
(2) 収入証明取得	... 取得率50.6% 完全施行に向け更なる取得を推進
(3) 家族カード切替	... 家族カード対象者への発行推進
(4) 配偶者貸付	... 6月から運用スタート
(5) 条件緩和対応	... 借り換え等の条件緩和対応の検討・実施

融資残高・収益への影響

前期末既存債権残高	1,149 億円
総量規制影響	▲211 億円
10年度末 既存債権残高計画	938 億円

	2010年度	前期差
融資収入	205億円	△35億円

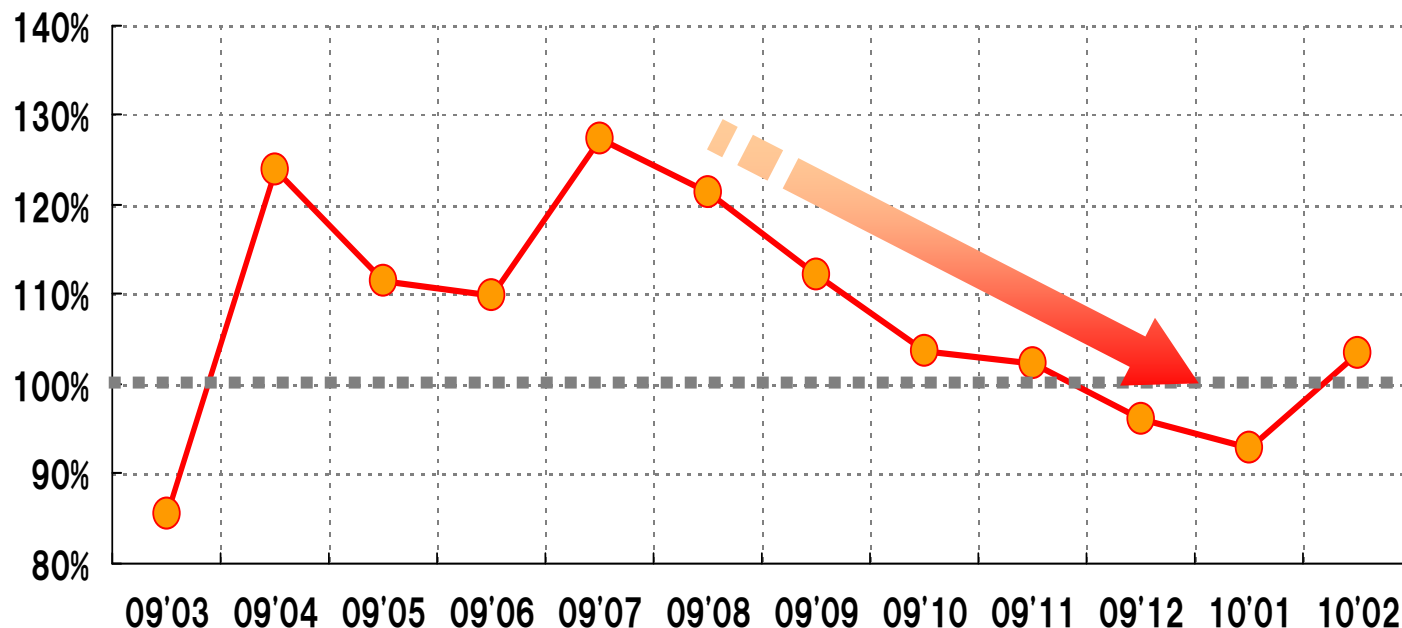


延滞・貸倒への影響

- ・ 総量規制に向けた各社与信厳格化により、延滞・貸倒の増加は既に顕在化
- ・ 現状の高水準での延滞・貸倒の継続を想定

- 新規介入件数は前期 2 Q をピークに増加トレンドはピークアウト
- 利息返還請求は概ね前 4 Q の水準で横ばいの推移を想定

新規介入件数前年同月比推移

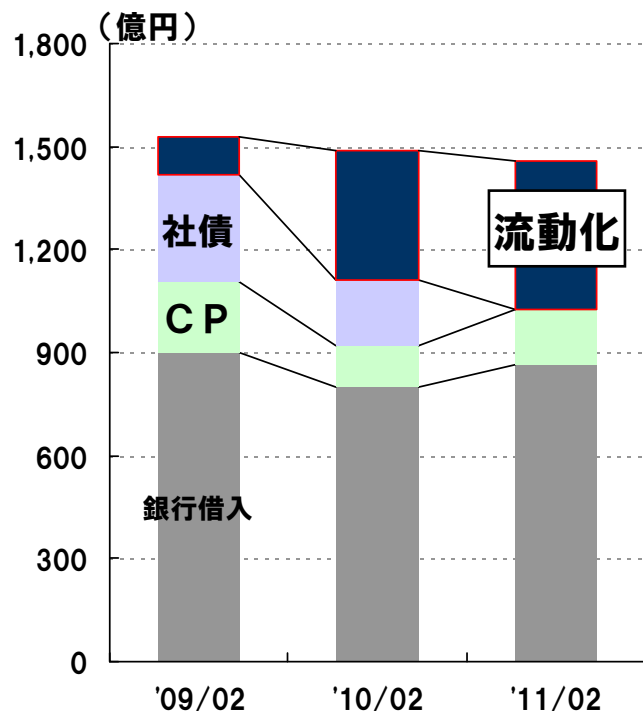


メイン行からの借入による安定化に加え、 債権流動化等を活用した資金調達の多様化を実現

単位：億円

	'09/02	'10/02	'11/02
総調達額	1,527	1,487	1,459
内 流動化	110	379	435

■調達内訳



10年2月期に実施した債権流動化

2009年3月
ショッピング1回払い債権

2009年9月
18%以下キャッシング債権

プロミス & SMFG・伊藤忠グループとの良好な関係を通じて 財務・マーケティング両面での安定基盤の確立を図る

プロミスグループ



三井住友 フィナンシャルグループ



伊藤忠グループ



伊藤忠商事



ファミマクレジット ファミリーマート



	2010年度 計画	前期差
① 営業収益	362 億円	△13 億円
② 経常利益	22 億円	+90 億円
③ 当期純利益	14 億円	+55 億円
④ ショッピング取扱高	2,800億円	+61 億円
⑤ ショッピングリボ残高	370 億円	+46 億円
⑥ プロセッシング保証残高	505 億円	+88 億円
⑦ 融資残高	1,180 億円	△77 億円
⑧ 新規獲得会員数	20 万件	△5 万件

◆本日の説明会に関するご質問、個別IRミーティング
開催のご希望、その他IRに関するご質問
などございましたら下記までご連絡ください。

<IRに関するお問い合わせ先>

経営企画部 IR・広報担当 廣田・外崎

TEL : 03-5441-3450 FAX : 03-5441-1231

E-mail : koho@pocketcard.co.jp

弊社IRホームページ

<http://www.pocketcard.co.jp/ir/>